

## 第29回蘭越町

# ニセコ連峰歩くスキー大会

雄大なニセコ連峰をめざし、352人がスタート



ニセコ連峰の雄大な自然を  
肌で満喫

4月3日、29回目を迎える「蘭越町ニセコ連峰歩くスキー大会」がチセヌプリスキー場周辺を会場に開催されました。シーズン最後の大会とあって、道内はもとより遠く埼玉県から歩くスキー愛好者が集まりました。ニセコ連峰の雄大な景色の中、自分のペースで歩くスキーを楽しむことができる本大会、スタート直後から、天候は徐々に回復し、15・30キロコースでは、洞爺湖や岩内町を望み、やわらかな春の陽ざしを受け、新春の息吹を存分に感じていました。

開会式では宮谷内町長が「お米と温泉と花の町、蘭越町へようこそ。心から皆さんを歓迎します」と選手を前にあいさつ。恒例のお楽しみ抽選会も行われ、温泉無料宿泊券やらんこし米の当選番号が発表されるたびに、歓声があがりました。

352人のスキーヤーが  
グレンデをスタート

午前10時30分、花火の合図でパノラマコース（30km）の選手がスタート。チセヌプリスキー場の長く急な登り坂に、悪戦苦闘しながらも、一生懸命に登っていく選手の皆さん。秀峰羊蹄山をバックに、ニセコ連峰の絶景を満喫しました。



急な坂を登ります



お楽しみ抽選会で、宿泊券を獲得



歓迎のあいさつをする宮谷内町長



眼下に蘭越町を望みます



この一杯の水が、最高です



まだまだ、余裕です



豚汁最高!!



無事にゴールです



チセヌプリをバックに



蘭越建設協会の皆さん



蘭越スノーモービルクラブの皆さん



商工会女性部の皆さん

春の蘭越町を

満喫し笑顔でゴール

ゴールをめざしスタートした選手の皆さんは、スキー場の急な上り坂を登り、給水ポイントで水分補給をします。15キロコース折り返し地点からは、眼下に望むすばらしい景色が広がり、春山の楽しさを満喫しました。最後に長く急なゲレンデを滑り降りますが、足腰が疲れ、スピードをコントロールできない選手の中には、スキーを脱ぎ、斜面を歩いてゴールした方もいました。ゴール地点で、家族や友人に迎えられた選手の皆さん。完歩証と記念品を手に、自分が滑走してきたニセコの山々を振り返り、完歩した実感を改めて感じていました。

大会を支えるボランティアの皆さん

ゴール地点では、あたたかい豚汁や淹れたてのコーヒーの無料サービスが例年大好評です。今年も建設協会や商工会女性部のみなさんが、疲れた選手の体を温かくおもてなしました。

大会の運営は、蘭越スノーモービルクラブやNPO法人北海道歩くスキー協会、蘭越町スキー連盟、蘭越ハムクラブなどたくさんの方々のボランティアに支えられました。

ご協力ありがとうございました。